

それぞれの地域で、はじめよう

各地ではじまっているふくしま DC に向けた取り組みの一部を紹介します。

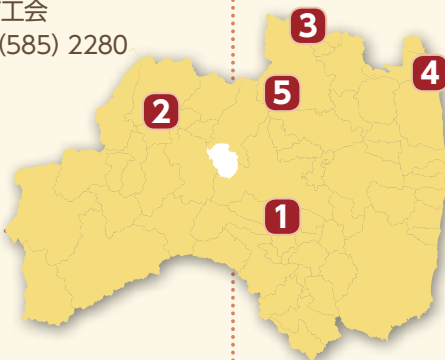
新しい名物で地域を盛り上げたい

3 国見バーガー

国見町商工会で、新しい名物を生み出そうと、昔から地元の名産だった地元商店のさばの味噌煮を使ったハンバーガーを作りました。当初はキッチンカーでイベント時のみの販売でしたが、国見バーガーをきっかけにして、町に足を運んでもらおうと、商店街の空き店舗を活用した販売もはじまっています。



【問い合わせ先】
国見町商工会
☎ 024 (585) 2280



地域の魅力を掘り起こそう

1 地域づくりワークショップ

県中地域では、県、市町村と民間が一体となって広域観光の推進に取り組もうと、「ふくしまど真ん中！元気プロジェクト」を立ち上げ地域資源の磨き上げに取り組んでいます。

岩瀬地方ではかつて「石背国」と呼ばれていた歴史に着目し、須賀川市、鏡石町、天栄村が一体となって（岩瀬地方広域観光連絡協議会）、話し合いやワークショップを行い、観光地域づくりのリーダーを養成中です。今後、リーダーが地域を引っ張り、この地域ならではのおもてなしを作ろうとしています。



今できることから取り組もう

4 被災地研修ツアー



相馬市観光協会では、震災後、旅館、飲食店が再開しているにもかかわらず、観光客が戻らず、「何かなくては」との思いを持ち、平成 24 年に松川浦、相馬港などを巡るツアーを始めました。現地では復興に向かう地元の様子を案内したり、語り部が震災当時の様子、現在の状況を説明したりして、被災地の今を伝えています。参加者の多くは県外からで、海外からの団体視察も案内しています。訪れてもらうことで、風化の防止と地域の再生につなげようとしています。

【問い合わせ先】相馬市観光協会 ☎ 0244 (35) 3300

農業で観光客との交流を

2 熱塩温泉と地元農家のコラボレーション



喜多方では温泉旅館と地元農家が協力して、観光客のアスパラガス収穫体験を行っています。

農家の指導の下、収穫作業を体験して

もらう「人と人の交流」が一番の魅力です。収穫作業後の心地よい疲れを地元の日帰り温泉で癒すことで、観光と農業それぞれの魅力につながるという「異業種の連携」が注目されています。

【問い合わせ先】熱塩温泉旅館協同組合
☎ 0241 (36) 3138

「生かされた」命で、命の大切さを伝える

インタビュー

津波で旅館も家族も流されてしまい、悲しむばかりでしたが、半年ぐらいして「泣いてばかりいてはだめだ。このことを語り継がなくては」と漁協の方やいちご園の方などと一緒に、当時のことをツアーの方々話し始めました。「生かされた」という思いから、命の大切さを伝えています。ツアーの皆さんに「ありがとう」「頑張ってください」と手を握られると、やって良かったな、という思いが込み上げてきます。

語り部
いごらし
五十嵐ひで子さん（相馬市）



大満足でリピーター続出！

インタビュー

収穫するコツだけではなく、アスパラガスづくりにかける思いや産地ならではのおいしい食べ方、地域の魅力などを話しながら、観光客の皆さんに体験してもらっています。収穫したアスパラガスのおいしさと温泉に満足していただき、リピーターの方がとても多いです。

アスパラガス農家
まとう せつこ
佐藤 節子さん（喜多方市）

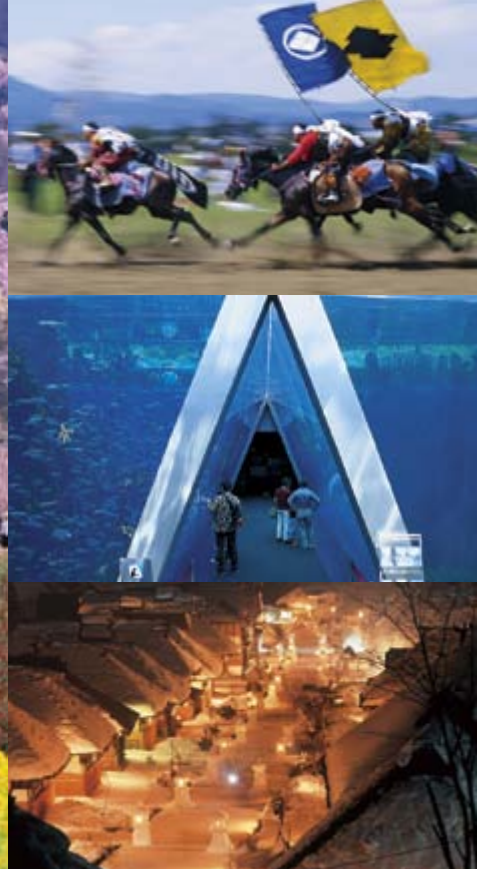




只見線沿線の5
町村では電車で
手を振ろうとい
う呼びかけをは
じめています。

また来てね!

地域の魅力を発見し、
DCにつなげよう
そしてふくしまでつながろう

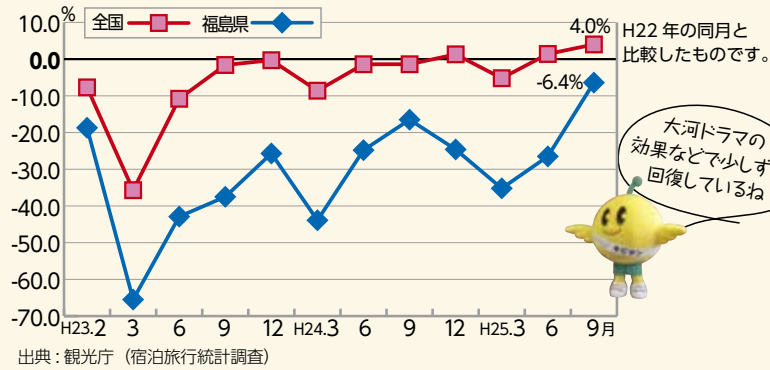


観光をふくしまの力に

ふくしま観光交流プロジェクト

県では県復興計画の中の重点プロジェクトの一つであるふくしまの観光交流プロジェクトを推進しています。今回は平成 27 年に本番を迎えるふくしまデスティネーションキャンペーン (* DC) に向けて県内で取り組んでいるおもてなしと魅力再発見の取り組みについて紹介します。

■観光客中心の施設における実宿泊者数（人泊）比較の推移



福島県知事 佐藤 雄平

知事
メッセージ

観光で地域の魅力発信はじめよう

本県の力強い復興には、地域に幅広い活力をもたらす「観光」の再生が欠かせません。この起爆剤となるのが平成 27 年に本番を迎える「ふくしまデスティネーションキャンペーン (DC)」です。豊かな自然、特色ある歴史や伝統文化、おいしい食など、たくさん観光資源に恵まれている本県にも、まだ知られていない宝が眠っています。DC を契機にこうした地域の魅力を発見して磨き上げ、新たな旅行商品を生み出していくことが、地域の元気につながります。

また、さまざまな全国大会や国際会議が県内各地で開催され、国内外から多くの方々が来県されます。こうした機会を逃すことなく、「ふくしまからはじめよう。」の合言葉の下、本県の魅力と今を広く発信し、観光の更なる振興を図ってまいります。

* デスティネーションキャンペーン (DC) とは、地元観光関係者や自治体、JRグループ6社等が協力し、全国の旅行会社等の協力を得ながら、3か月間重点的かつ集中的に全国で宣伝販売が展開される国内最大級の観光キャンペーンです。

ふくしまを伝えたい

5 大学生がプロデュースする福島の旅



スタ☆ふくプロジェクト（福島大学の学生による有志団体）は、「福島を感じて考えるスタディツアー」を企画し、地域の人たちと一緒に試行錯誤しながら8回のツアーを実施。これまで県内外から、延べ202人が参加しました。参加者は「報道だけでは分からない、来てみて初めて分かることがある」と感想を語り、受入側の漁師や農家の皆さんには、関心を持って訪れてくれる姿勢や参加者との交流を喜んでいただいています。「今後も、そんな両者の良好な関係を広げ、福島の活性のための活動に励んでいきたい。」と代表の吉田江里さん（2年生）。県のサポートを受けホームページ・フェイスブック・ツイッターなどで活動を発信しています。

ツアー参加者の声

スタ☆ふくプロジェクト

検索

新しい出会いや発見が楽しい！ 佐藤 仁さん（宮城県から参加）



テレビに映っている情報しか知らない私は福島に行くまで「現地の人はきっと落ち込んでいるのだろう…」と思っていました。しかし実際に現地に行くと「風評をなくせるように頑張っていこう！」という前向きな人たちがばかりでした。そんな人たちから刺激を受け、「自分にも何かできることはないだろうか」と考えさせられます。参加するたびに得られるたくさんの新しい発見や出会いをいつも楽しみにしています。

● 県の取り組み

外国人にやさしい観光案内を！

外国語の案内・パンフレットを作成

まちなかの案内表記や、観光地パンフレットなどの外国語表記に取り組み、外国の方が観光しやすい態勢を整えるため、県では外国語表記のための支援を実施しています。

福島県 外国人受入体制整備促進事業

検索



会津鉄道のパンフレット
（英語、中国語、韓国語表記）

「ふくしまデスティネーションキャンペーン」のプレキャンペーンが今年の4月からはじまります。それに向けて、各自治体や観光関係者等が地域の魅力の掘り起こしや磨き上げなどの準備を進めています。

風評を払拭したり、リピーターを拡大していくためには、県民一人一人がおもてなしの心を持って、来県する観光客に満足いただくことが大切です。

「列車や観光バスに向かって手を振る」「進んで道案内をする」など、DCをきっかけに、まずは自分ができることから始めてみませんか。

みんなでおもてなし！



おもてなし缶バッジ

県民総参加でおもてなし

「福が満開おもてなし隊」参加者募集！

「あいさつをする」「観光地を掃除する」「進んで写真を撮る」などのおもてなしで、福島県のイメージアップやリピーターの拡大に取り組んでみませんか。

団体・企業単位、個人単位のいずれでも参加できます。参加者にはおもてなし缶バッジを配布します。詳しくは県庁観光交流課までお問合せください。

【問い合わせ先】 県庁観光交流課 ☎ 024 (521) 7398



デスティネーションキャンペーンは3か年計画の観光キャンペーンです。

平成 26 年 4 月 1 日～6 月 30 日

ふくしまプレ DC

「福が満開、福のしま。」福島県観光キャンペーン

平成 27 年
4 月 1 日～6 月 30 日
ふくしまデスティネーション
キャンペーン

平成 28 年 4 月 1 日～6 月 30 日

ふくしまアフター DC